

ケアハウスに関する基礎的研究(第1報)

入居理由及びサービスに対する評価について

聖霊女子短大 ○佐々木久長 佐藤衛子 佐藤了子

〔目的〕現在最も注目されている新しい老人福祉施設であるケアハウスにおける生活の実態を把握することを目的として行った。なお、第1報では、入居理由とサービスに対するニーズと評価の関係を明らかにする。

〔方法〕秋田市内に平成9年4月に開設されたケアハウスの入居者を対象に、事務室を通して、入居者のポストにアンケート用紙を配布し事務室窓口に提出してもらった。98名中、回答のあった37名を対象とした(回収率37.8%)。調査実施時期は平成10年1月。

〔結果〕(1)入居理由(複数回答)としては「老後の設計として決めていた(46%)」「一人暮らしの不安・不便をなくしたい/家族に負担をかけたくない(43%)」「費用の面で意向とあった(38%)」が多かった。(2)ケアハウスに対するニーズは以下のように分化していることがわかった(食事の提供=個室の提供>入浴の提供=緊急時の対応>職員による相談=趣味・娯楽面)。(3)提供されるサービスに対する満足度(職員=入浴一部屋=施設>食事)の順番で、最もニーズの高い食事に対する満足度が最低であった。(4)サービスから考えた利用料については2/3が「妥当」と、1/4が「高い」と評価していた。(5)満足度が低い人は利用料を高いと評価する傾向が見られた。